【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成19年3月1日(2007.3.1)

【公表番号】特表2002-542023(P2002-542023A)
【公表日】平成14年12月10日(2002.12.10)
【出願番号】特願2000-612219(P2000-612219)
【国際特許分類】
Ｂ０１Ｊ　10/00　　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　19/00　　(2006.01)
Ｃ０１Ｆ　11/18　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０１Ｊ　10/00　　１０４
Ｂ０１Ｊ　19/00　　３１１Ｚ
Ｃ０１Ｆ　11/18　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成18年12月20日(2006.12.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
本発明に従う反応器は、反応器における平均液深が約１インチ(２．５４ｃｍ)～約３６０インチ(９．１４ｍ)の範囲であるように構成され得る。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
本発明に従う反応器が組み立てられそして試験された。該反応器は、１４個のチャンバー又はゾーンを持つ７．３ｆｔ(２．２２５ｍ)（長さ）×９．２５インチ(２３．４９ｃｍ)幅の全体の内部寸法を有していた。該チャンバーは、３フィート(９１．４４ｃｍ)のみかけの液深が反応器内で維持されるように、図に示されたような各々のチャンバー間の通路を伴って組み立てられた。該反応器は、ゾーン１～４が２．６２５インチ(６．６６ｃｍ)長であり、ゾーン５～１３が７．２５インチ(１８．４２ｃｍ)長であり、かつゾーン１４が１１．６２５インチ(２９．５２ｃｍ)長であるように配置された。該反応器は、チャンバーの単一のライン又は行を含み、しかし、上記で説明したように及び下記の試験結果により示されているように、チャンバー又はチャンバーモジュールの種々の構成が使用され得る。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３５】

【表１】

表 1

		実際のパイロットの条件
操業番号	-	4
ガス温度	°F (℃)	68.00 (20)
基準ガス圧力	psig	0.00
合計ガス流速	cfm (Lm)	60.00(1.699)
ガスCO_2濃度	vol%	15.00
CO_2流速	cfm (Lm)	9.02 (255.4)
CO_2流量	lb/min (g/min)	1.03 (466)
ガス効率	%	51.58
PCC速度	lb/min (g/min)	1.21 (548)
PCC速度	lb/h (Kg/h)	72.45(32.82)
平均消和MO	ml-1N-HCl	7.90
消和フィード速度	gpm	1.83
SSA	m^2/g	4.40
製品モルホロジー	-	アラゴナイト
反応器全体積	gal (L)	122.55 (463.88)
ゾーン数	-	14.00
ゾーン体積 Numbers 1-4	gal/ゾーン (L/ゾーン)	3.68 (13.92)
ゾーン体積 Numbers 5-13	gal/ゾーン (L/ゾーン)	10.17(38.49)
ゾーン体積 Number 14	gal/ゾーン (L/ゾーン)	16.31(61.73)

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４２】
本発明の方法及び装置が使用されて気／液反応をもたらし、ここで、反応ガス（例えば、CO_2）及び空気の混合物が、懸濁のために使用され、かつ反応器を通して移送される。そのような反応の例は、下記の通りである。